

## 公智神社の遷座伝承について

西川卓志（当館学芸員）

### はじめに

平成28年度の指定文化財公開として、「西宮の社寺建築」と銘打った展示会を開催した。市内の指定重要文化財の建造物に関する写真パネルや建築部材を展示し、広く市民に情報提供を行った。展示に際しては、建築そのものの直接的な解説というよりは、それが建つ地域の歴史との関わりを重視した解説を試みた。そのような中で、本市山口町下山口に所在する「公智神社神輿殿」（西宮市指定重要文化財）は、新しい資料が加わることによって地域史の復元に一役買うという、興味深い展示対象となった。

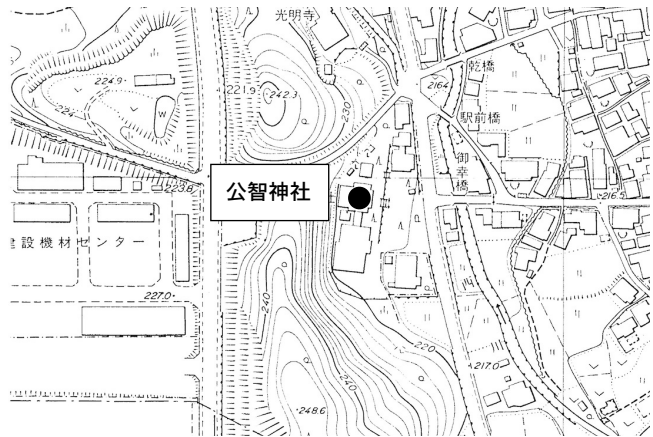
### 1. 式内社公智神社の伝承

「公智」という呼称に関する伝承は、『日本書紀』孝徳紀や『釈日本紀』に採録された摂津国風土記逸文に詳しい。孝徳天皇の有馬行幸時に建築したとされる行宮に、良質の建築用木材を供給した山「巧地山」（こうちやま）に因むといい、創始された神社は後に有馬郡三座のひとつとして式内社となった。しかし、当然、その巧地山の位置と範囲、その行宮や最初の公智神社の位置などが明確になるものではない。公智神社も現在の場所（西宮市山口町下山口）とは違って、古くは神社東方の天上山に所在したものが、ある時期に現在の場所に遷座したというが、その詳細もまた不明である。

### 2. 現在の公智神社

公智神社の立地を見ると、現在西宮市指定天然記念物の社叢林である丘陵地の東側を、ある時期に一部山を開いて平地とし、石垣を概ね二段に巡らせて上段中央奥に本殿を営んでいるのがわかる。本殿は東に向かって祀られ、江戸期の史料によればその北側に釈迦堂が、南側に観音堂があったことが分かる。現神輿殿はこの釈迦堂に当たる。神社宝物に上げられた10点を数える棟札も、最古のもので

も寛永期であり、境内に置かれた石造手水鉢の刻銘も元禄3年(1690)と、現在境内に残るものはいずれも江戸時代である。そのため、現在の場所がいわゆる「式内社 公智神社」の故地とは考えがたく、後の時代に他所から遷座したという伝承を間接的にはあるが裏付ける結果となる。明らかに江戸時代以前に遡る資料は、各部の様式から室町時代末期(1573年幕府滅亡)以降の建築とされる「公智神社神輿殿」(西宮市指定重要文化財)だけである。では、公智神社が現在地に移ったのは神輿殿が建てられた室町時代末かそれ以降と考えるのが妥当なのか、それともより遡る可能性があるのだろうか。



第1図 公智神社の位置と現況

### 3. 境内出土の大量出土銭

昭和49年に公智神社の境内から興味深い資料が確認された。4,000点を超える銭貨の大量埋納遺構である。木造の拝殿を鉄筋コンクリート化する工事中の不時発見であったが、幸いに市教育委員会宛に通報があり適切な事後処理が行われた。発見の経緯から埋納状況は不詳とせざるを得ないが、容器を伴わないことと、重なった銭貨の間に藁片が散見されることから、銭貨を藁に通して束ねた藁縹であったことが推定できる。

確認された全点数は4,591点で、そのほとんどが中国宋代の銅銭、一文銭である。整理の結果を簡易にまとめたのが第1表である。最古銭は開元通寶(唐代)で初鑄年が621年、最新銭が宣徳通寶(明代)で初鑄年が1433年である。大半が中国銭であったが、わが国で鑄造された模鑄銭が86点含まれていた。中世鎌倉時代や室町時代から近世初頭にかけて、本邦では為政者(幕府)による独自銭貨の発行が原則行われない。輸入された膨大な中国銭に頼って当時の通貨需要を満たしていた。中国銭が流通した市場では、中国銭の本銭に混じって模鑄銭が出現する。それらは本銭から鑄写したもので、中国銭に較べて外見や銅質は劣悪である。その

劣悪な摸鑄銭を鑄写ししながら鑄造を繰り返すと、ひじょうに小形で薄く、銭名を示す銭文も判読できないか又は銭文そのものがない“銭貨のようなもの”が生まれる。この無文銭は最も劣悪な摸鑄銭のひとつであり流通から排除される対象ではあったが、緡銭に混じって通用する場合もあった。この無文銭が公智神社出土の銭貨の中から見つかった。このような無文銭を鑄造した鑄型は、堺市堺環濠都市遺跡で確認されている。鑄型の時期は16世紀半ばから後半で、この種の無文銭を製造した時期が16世紀の半ばから後半であることは確実で、流通もそれ以降になる。したがって公智神社境内で確認された大量出土銭の埋納は16世紀半ば以降となる。銭貨中の最新鑄造銭である宣徳通寶だけによるなら、その埋納は15世紀前半かそれ以降となるが、無文銭の存在が埋納時期の特定をより厳密にした。5千枚に近い銭貨が16世紀後半のどこかで、本殿建立に先立ってか、地中に埋納されたということになる。

種別		点数	備考
中国銭本銭	北宋銭	3,648点	
	明 銭	479点	宣徳通寶9点を含む
	唐 銭	286点	
	他	92点	中国銭以外も一括
模鑄銭		86点	無文銭2点を含む
合計		4,591点	

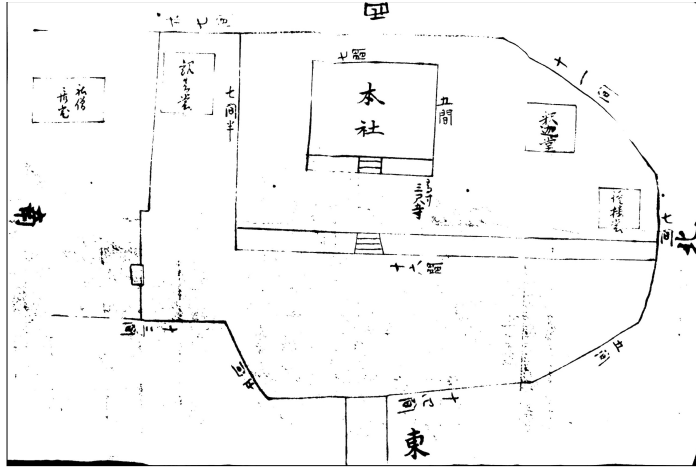
第1表 公智神社出土銅銭の概要

### まとめ ～神輿殿の建築と大量出土銭の埋納～

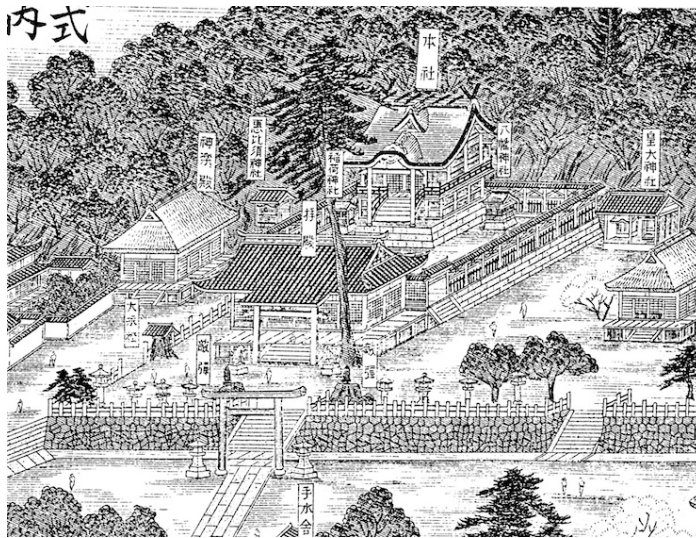
出土銭は旧木造拝殿の建替えに際して出土した。出土場所は公智神社境内地二段目の造成面上にあったことになる。しかも、その最も奥で造成地の中央部近くであることから、本殿の建築に関係するものと推定してよい。山を開いたり、新しい建築物を建てたりする場合には地鎮に類する祭祀を行う事例が多い。この大量出土銭はその供物と考えられる。このことから、周辺の造成から境内の整地、本殿の建築にいたる一連の行為は、16世紀の半ばから後半、本殿が建てられた時期までに行われたと考えるのが妥当である。そして、公智神社の現在地への遷座は、室町時代も終わりに近い、16世紀後半という時期に行われたと思われる。この時期に本殿が建ったとすれば、その後おそらくは時を経ずして室町時代末以降に神輿殿は建築されたということになる。神輿殿は屋根の形を変えながら現在に至っている。当初の屋根は宝形造りで、檜皮葺きか柿葺きであったことが建築調査で判明している。

付近には、南北朝期に開かれた真言宗寺院（神明山八雲院 後の法楽寺）が、沖積地を中心に広範囲を占めて立地していた。16世紀後半の状況は不明であるが、上述した公智社遷座に伴う一連の作事は、この寺院境内を西北側にはずして行われたと思われる。遷座用地を確保するため、先に寺院境内地があった平地側を避け、西北側の丘陵地に手を入れることで神社敷地を新たに作り出したものであろうか。

公智神社が現在地に移った経過について、地上に残る建築物（神輿殿）と、地下に埋もれていた錢貨を用いて類推してみた。断片的な資料ではあるが、特殊な状況を設定せずに素直に繋ぎ合わせると以上のような結論となった。16世紀後半に現山口町域で起こった出来事のひとつである。



第2図 公智神社境内図



第3図 公智神社境内鳥瞰図

註

\* 『山口村誌』（昭和48年3月 山口村誌編纂委員会発行）「第九章 名所・旧跡・伝説」の「二 旧跡」の項に功地山の記述がある。かつては天上山頂上に祭壇跡があり、付近に錢貨などの遺物が散見された、という。

\* 『山口村誌』「第八章 社寺・教会」の「二 寺院」の項に、廃寺となった法樂寺の記録がある。寺は南北朝期の建立とされ、現在の公智神社東北側から南側にかけて、主に沖積地上で広範囲を占めたという。廃寺となるのは明治時代以降のこと。

# 西宮歴史調査団の10年～文化財調査ボランティア活動の記録～

俵谷和子（当館学芸員）

## はじめに

西宮歴史調査団（以下、「調査団」）は、平成18年度から開始した文化財調査ボランティア事業である。西宮市民が主体的に「未指定の文化財を全て記録する」という目的のために、日々活動している。設立の経緯については、ニュース31号を参照いただきたい<sup>(1)</sup>。このたび尼崎市において、歴史遺産の保存と活用を目的に活動する市民団体によるシンポジウムが開催され（平成29年3月25日）、本市からは調査団が報告した。これを機に調査団の活動をふりかえる<sup>(2)</sup>。

## 1. 調査活動

調査団の活動は、調査活動、定例会活動、報告・普及活動に分かれる。ここでは、基本となる調査活動について紹介する。これまで7つのテーマで実施してきた(表1)。調査完了後は、報告書・展覧会・刊行物等でその成果を報告している。

【表1】調査活動一覧

年度	活動グループ名	活動内容	登録者数
平成18年度 (2006)	寺院・墓地班	甲山八十八ヶ所の調査	5名
	街道班	西国街道の調査	4名
	地藏班	西宮市南部（旧西宮町周辺）の調査	1名
	橋梁班	新堀川の調査	2名
平成19年度 (2007)	寺院班	甲山八十八ヶ所の調査	9名
	街道班	有馬街道の調査	6名
	地藏班	西宮市南部（甲東～甲子園周辺）の調査	5名
	橋梁班	新堀川の調査	2名
平成20年度 (2008)	寺院班	甲山八十八ヶ所の調査	6名
	街道班	山陽道の調査	8名
	地藏班	西宮市北部も含めた地域の調査	8名
	橋梁班	新堀川・甲東地区の調査	4名
平成21年度 (2009)	石造物班	今津・甲子園・西宮北口地域の調査	8名
	街道班	中国道・金仙寺道の調査	6名
	地藏班	西宮市北部も含めた地域の調査	7名
	橋梁班	新堀川・甲東地区・国道2号の調査	9名
平成22年度 (2010)	石造物班	西宮市内の神社（松原町・上甲東園等）の調査	7名
	街道班	甲山神呪寺参詣道の調査	7名
	地藏班	市内全域の調査	6名
	橋梁班	市域各河川の調査	4名
平成23年度 (2011)	石造物班	西宮市内の神社（甕岩町・新明町・小松南町等）の調査	19名
	橋梁班	市域各河川の調査	7名
平成24年度 (2012)	石造物班	西宮神社の調査	13名
	橋梁班	市域各河川の調査	7名
	古文書班	旧西宮町の宗旨人別帳の調査	13名

年度	活動グループ名	活動内容	登録者数
平成25年度 (2013)	石造物班	西宮神社の調査	12名
	橋梁班	市域各河川の調査	6名
	古文書班	旧西宮町の宗旨人別帳の調査	11名
平成26年度 (2014)	石造物班	西宮神社の調査	9名
	橋梁班	市域各河川の調査	7名
	古文書班	旧西宮町の宗旨人別帳の調査	11名
平成27年度 (2015)	石造物班	西宮神社・名次神社の調査	9名
	橋梁班	市域各河川の調査	7名
	古文書班	旧西宮町の宗旨人別帳の調査	13名
	竜吐水班	所在確認調査	9名
平成28年度 (2016)	石造物班	西宮神社・日野神社の調査	9名
	橋梁班	市域各河川の調査	7名
	古文書班	旧西宮町の宗旨人別帳の調査	13名
	竜吐水班	所在確認調査	9名

## 2. 定例会活動

定例会は、毎月第2土曜日の午前中に調査員同士の情報共有・スキルアップのための講座や研修・普及活動等を行なっている。これまでの活動は表2のとおり。

【表2】定例会活動一覧

	月	活動内容	月	活動内容
平成 18 年 度	4	甲山神呪寺で石造物調査の実習	4	調査団の活動について
	5	写真撮影の実習	5	年報作成について説明
	6	各グループの調査状況報告会	6	19年度登録会・活動報告 (台風で中止)
	7	常設展示室(自然)解説	7	西宮市指定文化財の講座
	8	常設展示室(考古)解説	8	西宮の歴史(西宮のおいたち)
	9	常設展示室(考古)解説	9	旧石器時代から縄文時代の講座
	10	高畑町遺跡の講座	10	弥生時代の講座
	11	各グループの調査状況報告会	11	阪神間の弥生時代の講座
	12	年報作成について討論会	12	古墳時代の講座
	1	年報作成について討論会	1	『魏志倭人伝』について講義
	2	年報作成について討論会	2	古墳時代の講座
	3	年報作成について討論会	3	
平成 20 年 度	4	年報刊行の反省会	4	21年度の登録説明会
	5	20年度登録会	5	21年度の登録会・活動の説明
	6	20年度の活動内容について	6	西宮の歴史と文化財の講座
	7	特別展示の解説	7	特別展示の解説
	8	古墳時代の講座	8	西宮の年中行事の講座
	9	常設展示室・アラカルト展示解説	9	西宮神社とえべっさんの講座
	10	常設展示室(古代・中世)解説	10	越水山遺跡の講座
	11	アラカルト展示解説	11	指定文化財公開・アラカルト展示解説
	12	アラカルト展示解説	12	特集展示・アラカルト展示解説
	1	常設展示室・アラカルト展示解説	1	活動報告会(橋梁・地蔵)
	2	アラカルト展示解説	2	活動報告会(石造物・地蔵)
	3	常設展示室(近世)解説	3	活動報告会(街道)
平成 22 年 度	4	自己紹介	4	23年度の活動内容
	5	収蔵庫見学会	5	調査方法の講座
	6	調査団の活動目的・調査法の講義	6	写真撮影の実習
	7	徳川大坂城東六甲採石場見学会	7	西宮の歴史(原始・古代)の講座
	8	西宮砲台の講座	8	特別展示解説
	9	拓本実習(住吉神社)	9	現地解説会(今津・甲子園)
	10	特集展示解説	10	西宮の歴史(中世)の講座
	11	指定文化財公開解説	11	拓本実習(須佐之男神社)
	12	慶長十年撰津国絵図の鑑賞会	12	西宮の歴史(近世)の講座
	1	アラカルト展示解説	1	西宮の歴史(近代)の講座
	2	特別展示解説	2	西宮の歴史(現代)の講座
	3	活動報告会・登録会	3	活動報告会

	月	活動内容	月	活動内容	
平成 24 年度	4	自己紹介（団長・連絡員選出）	平成 25 年度	4	自己紹介（団長・連絡員選出）
	5	オリエンテーション		5	オリエンテーション
	6	文化財の見学（s老松古墳）		6	登録博物館について・収蔵庫見学
	7	調査員ミニ報告会①各班活動報告		7	文化財の見学（昌林寺）
	8	特別展示解説		8	特別展示解説
	9	調査員ミニ報告会②各班活動報告		9	調査員ミニ報告会①戦跡と文化財
	10	文化財の見学（名塩八幡神社祭礼）		10	文化財の見学（旧山本家住宅）
	11	現地解説会（甲東村）		11	現地解説会（旧西宮町）
	12	調査員ミニ報告会③西宮砲台		12	調査員ミニ報告会②鳴尾の義民
	1	文化財の見学（西宮砲台）		1	調査員ミニ報告会③武庫川に架かる橋
	2	報告会準備		2	報告会準備
	3	活動報告会・登録会		3	活動報告会・登録会
	平成 26 年度	4		自己紹介（団長・連絡員選出）	平成 27 年度
5		研修 文化財とは・石造物調査の基礎	5	文化財の見学（神原周辺）	
6		研修 調査写真の撮影方法・古文書調査の基礎	6	研修 竜吐水の調査について	
7		調査写真撮影（実習）・橋梁調査の基礎	7	研修 古文書の調査について	
8		（台風で中止）	8	特別展示解説	
9		橋梁班調査報告	9	研修 橋梁の調査について	
10		石造物班調査報告	10	研修 石造物の調査について	
11		文化財の見学（青石古墳・ヨタノ谷古墳群）	11	指定文化財公開展解説	
12		古文書班調査報告	12	研修 報告書用写真の撮影方法	
1		特集陳列解説	1	調査員報告 北摂一の軍師	
2		報告会準備	2	特集展示解説	
3		活動報告会・登録会	3	活動報告会・登録会	
平成 28 年度		4	自己紹介（団長・連絡員選出）		
	5	研修 文化財調査のツボ「ツボ」			
	6	研修 文化財調査のツボ「紙」			
	7	特集展示準備の進捗報告			
	8	特別展示解説			
	9	特集展示解説			
	10	現地解説会（西宮神社）			
	11	指定文化財公開展解説			
	12	文化財の見学（高塚1号墳）			
	1	研修 文化財調査のツボ「テレビ」			
	2	研修 文化財調査のツボ「石」			
	3	活動報告会・登録会			

### 3. 活動成果の報告

#### (1) 刊行物

##### ア 調査団通信

平成21年2月から毎月発行し、定例会で配布。事務室前掲示板に掲示するとともに市ホームページに公開。平成24年5月からは、調査員が編集を担当。

##### イ 調査団ニュース

平成26年3月31日に発刊。不定期で第5号まで発刊している。

##### ウ 年報

平成19年度から各年度ごとの活動をまとめて継続刊行している。

##### エ 調査報告書

「甲山八十八ヶ所」 平成24年3月刊・平成26年増刷（寺院・墓地班）

「西宮の地蔵」 平成26年3月刊（地蔵班）

## (2) 展覧会

### ア パネル展示

市立図書館と共催で「郷土史を学ぶ」をテーマに展示とブックフェアを行なった。

【表3】図書館との共催事業

開催場所	開催期間	内容
中央図書館エントランス	平成26年10月3日～11月5日	調査団の活動と図書リスト
鳴尾図書館視聴覚室	平成27年2月6日～3月1日	鳴尾地区の調査成果と図書リスト
北部図書館閲覧室	平成27年3月6日～3月22日	北部地域の調査成果と図書リスト
北口図書館閲覧室	平成28年12月2日～平成29年1月15日	西宮歴史”発見”物語をテーマに開催

### イ 特集展示

第34回 巡礼と石仏-甲山八十八ヶ所- 平成23年9月～10月

第44回 西宮地域の宗旨人別帳 平成26年2月～3月

第46回 西宮神社の石造物-春詠む芭蕉、秋の鬼貫- 平成28年9月～10月

## (3) 講座・普及事業

ア 現地解説会（内容は表2「定例会活動」を参照）

イ 市民が語るにしのみやのいまむかし@にしきた

平安貴族の旅日記（曲江三郎）平成25年11月22日

西宮神社の石灯籠（衣笠周司）平成26年11月14日

北撰一の軍師 田近新次郎（荒木知）平成28年12月22日

ウ 歴史・訪ね・歩き@にしきた（橋梁・石造物・古文書）平成27年3月26日

エ 活動報告会

平成21年から年度ごとの活動を報告。平成22年度からは一般参加者を募集して3月定例会に実施している。

## むすび

調査団の活動は、設立当初の職員の想像をはるかに超えて充実した内容となっている。今後も市民の主体的な活動を支援し、さらなる飛躍を目指していきたい。

(1) 「郷土史学習会について」（『西宮市立郷土資料館ニュース』第31号 平成17年3月刊。）

(2) 平成18年度～平成28年度の活動報告である。

## 目次

## CONTENTS

公智神社の遷座伝承について（西川卓志）…1

西宮歴史調査団の10年～文化財調査ボランティア活動の記録～（俵谷和子）…5

西宮市立郷土資料館ニュース第46号 平成29年（2017年）3月31日